

平成28年度 学校評価アンケート集計結果分析・考察

1 回収率

表1 平成28年度の全体の回収率

	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度
生徒	99.9%	99.4%	99.8%	99.6%	100%
保護者	87.0%	87.0%	91.4%	90.4%	83.6%

表2 学年ごとの回収率

	全体集計			1年			2年			3年		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
生徒	100	97.4	99.9	100		100	100	97.4	99.7	100		100
保護者	100	39.5	87.0	100	75.0	95.3	100	39.5	74.3	100	67.5	91.5

本校は平成21年4月、仙台商業高等学校と仙台女子商業高等学校が統合、新しく仙台市立仙台商業高等学校として開校し、8年が経過しようとしている。上の表の平成24年度は全学年が8学級に揃った2年目の年度であり、今回の分析結果が新しい「仙台市立仙台商業高等学校」を考えていく上で基本的なものになるととらえて今年度の分析を進めていきたい。

なお、回答総数は、生徒947（男子395、女子552）、保護者826（男子生徒の保護者337、女子生徒の保護者489）である。

2 集計方法

設問内容については、5年前から生徒用のものに、「ボランティア活動への参加」に関する質問項目を追加している。なお、男女共学にとまなう変化についても読み取れるよう配慮した。

生徒用は設問1から18までの項目、保護者用は1から17までの項目に対してA・B・C・D・無回答の順に回答数とその回答率（%）を集計し、さらに100%積み上げ横棒形式のグラフに置き換えて集計表示した。

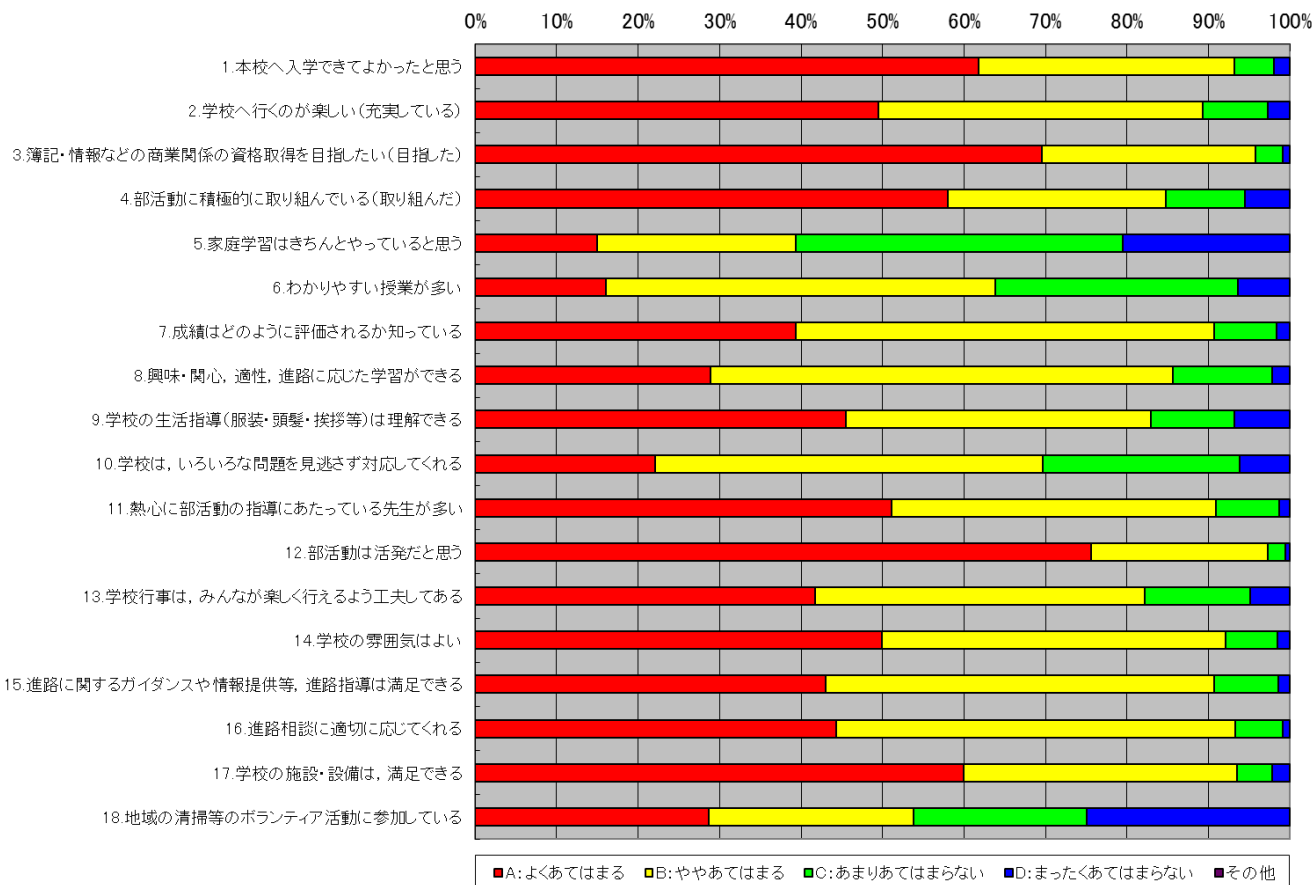
設問の最後には自由記述欄を設けて、設問項目に対する意見や項目以外に対する提言及び感想を記入してもらっている。

- (1) 横棒表示は生徒毎、保護者毎、教員毎に作成。
- (2) 回答内容と回答数は全体、学年別、学科別に作成。
- (3) 自由記述欄は、記述された文言を忠実に羅列集計。

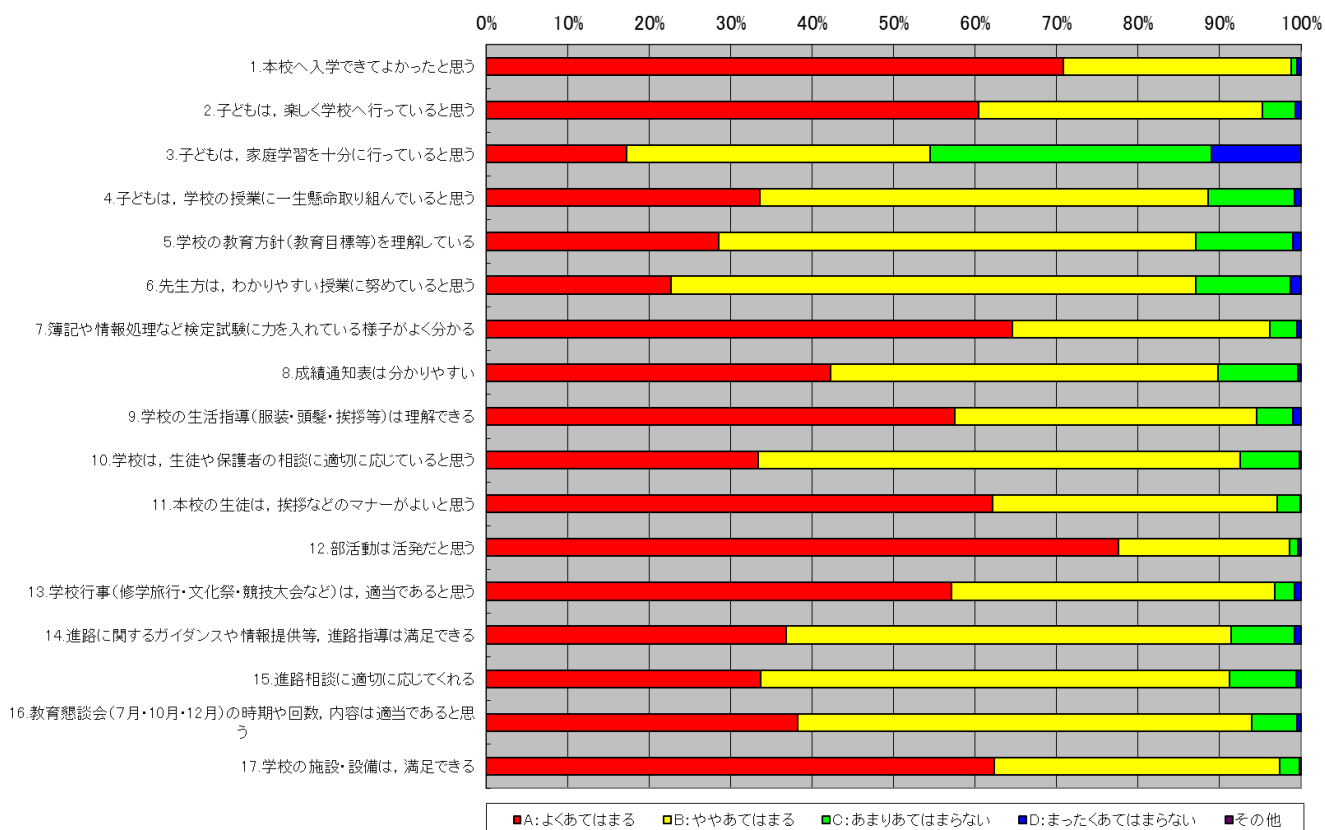
3 公表範囲

- (1) 仙台市教育委員会に概要を報告
- (2) 保護者に概要を配布
- (3) 学校評議委員会に概要を提示
- (4) 学校のホームページに概要を掲載・公表

平成28年度 学校評価アンケート（生徒対象）



平成28年度 学校評価アンケート（保護者対象）



【分析・考察】

1 学校に対する全体的な印象

2 ページの図を一昨年度・昨年度のものと比較すると、一昨年は生徒・保護者とも「よくあてはまる」「ややあてはまる」がともに増加し、昨年度は若干減少したものの好結果だったと言える。今年度はまたともに増加した。以上のことから本校の新しい教育がますます定着してきていることを物語っている。

「本校へ入学できてよかった」との回答が全体では93%を超え、1年生全体が93.4%、2年生が91.7%、3年生が94.3%でどの学年も好ましい評価となっている。ほとんどの生徒が満足感を感じながら登校してきている。このことから、本校の地道な教育活動が効果的に行われてきた結果といえよう。

保護者からは昨年度同様98%以上が入学できてよかったという回答を得ている。また、「学校へ行くのが楽しい(充実している)」とする項目に関しても同様な傾向が見られ、生徒は3年生が最も高く(92.1%)、2年生(89.8%)、1年生(86.1%)となっているが、保護者は学年に関係なく94%を超えている。以下に目的意識、学習意欲、生活意識、進路意識に項目を分けて分析するが、これらの割合が高いことから、第一段階として生徒に対しての学校としての教育活動が効果的に行い易いということを暗示している。

2 目的意識

「資格取得を目指している(目指した)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、95.8%(昨年度より2.0ポイント上昇)、「学校全体に部活動が活発だと感じている」の項目も「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、97.2%(昨年度より0.7ポイント上昇)となった。保護者のアンケートにおいても、「資格取得を目指している(目指した)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、96.1%(昨年度と同様)、「学校全体に部活動が活発だと感じている」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、98.5%(昨年度より0.8ポイント上昇)となった。上記の質問項目に関しては、昨年度よりポイントが上昇するとともに95%以上の好評価を得ている。このことから学校が目指している方針が前向きに浸透してきていると考える。

部活動については、84.8%(昨年度より1.9ポイント上昇)の生徒が「積極的に取り組んでいる(取り組んだ)」と答えた。部活動と勉強の両立を目指している生徒が多いといえる。また、多くの生徒が商業高校としての特徴である資格取得を意識しながら学校生活を送っている。しかしながら、後述するように部活動への取り組みについては、学年による差や男女による差が多少見られる。この問題点を十分に分析し、生徒にとって充実した学校生活を送れるよう努めていかなければならない。そのうえで本校の教育活動を継続し、さらに創意工夫を重ね実践していく必要がある。

3 学習意欲

生徒の「家庭学習はきちんとやっている」との項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で39.4%となり昨年度から0.7ポイント上昇した。内訳は1年生が35.7%、2年生が39.8%、3年生が42.5%(昨年度は1年生が39.2%、2年生が36.1%、3年生が40.8%)となった。保護者の「子どもは家庭学習を十分に行っている」との質問に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で54.5%となった。内訳は1年生が49.3%、2年が54.7%、3年生が59.6%(昨年度は1年生が51.2%、2年が49.8%、3年生が48.7%)とな

った。生徒において、1年生の家庭学習が昨年度比べてポイントが下降したが、2年生・3年生は、学年進行とともに家庭学習の意識が高っている。このことは、保護者においても同様の結果が示されている。その背景には、目的意識での「資格取得を目指している・目指した」との回答を密接につなぎ、どの学年においても上級の資格取得を目指すには家庭学習が不可欠であることを生徒自身が理解していると考える。このことに踏まえて、日々の授業や朝自習を大切し、日々の学習の積み重ねが資格取得、そして大学進学や就職といった進路実現につながることを生徒たち考えさせ、実行できるように指導していかねばならない。来年度はさらに各教科で工夫を重ね、より自己学習のできる生徒を育てていきたいと考える。

生徒の「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は全体で63.8%（昨年度は64.4%）で0.6ポイント下降した。内訳は1年生63.7%、2年生59.6%、3年生68.2%（昨年度は1年生64.2%、2年生66.8%、3年生62.6%）となった。3年生を除いてはポイントが下降した。1年生は、高校での学習についての考え方などが浸透していないケースや2年生は、商業科目の専門化が進み、生徒が理解しにくくなっているケースを教員側が理解し、授業展開などを含めた工夫をしていく必要があると考える。また、どの教科においても、現職教育である「校内公開研究授業」の実施や、わかりやすい授業を目標とした教材研究等を通じ、今後も授業力向上を図り、本質問項目の回答が100%になるよう全教職員がさらに研究と修養に励む必要がある。

生徒の「成績はどのように評価されるか知っている」との質問に、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は全体で90.7%である。学年別では1年生87.7%、2年生89.5%、3年生95.0%（昨年度は全体1年生80.1%、2年生93.0%、3年生86.2%）となり、2年生を除けば、ポイントが大幅に上昇した。観点別評価が生徒に定着し始めていると同時に学習成果が評価に直結していることを生徒自身が実感しているからだと考える。今後ともシラバスを有効に活用しながら評価方法を生徒に明示し、観点別評価を意識した授業を進めていかなければならない

4 生活意識

生徒の回答に関して「学校の雰囲気はよい」は、これまでと変わらず92%を超えるという高い割合を示している。また、「学校の生活指導は理解できる」は80%超が理解をしている結果となったが、学年間の差異が大きくみられ、昨年より低下している。「学校はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる」は、70.9%から今回は69.6%と評価が下がっている。項目によっては減少傾向にあるので、日ごろの地道な学級指導、生徒指導を実践する必要があるといえよう。今後はさらに生徒とのさらなるコミュニケーションや迅速なる対応を図りながら問題を解決していきたい。

「部活動は活発だと思う」については、生徒・保護者とも昨年の96.5%を超え、生徒97.3%、保護者98.5%の高評価を得ており、部活動は資格取得活動を中心とした学習活動とともに本校の教育の両車輪が十分評価されていることになる。統合後8年が経過するが、女子の運動部への加入率が上昇してくることが望まれる。生徒に関して「ボランティア活動に参加している」は昨年44.0%に上昇したが、今年はさらに53.8%に上昇しており、奉仕活動への意識が高くなってきていることが伺える。また男女差で見ると（男子67.6%・女子44.0%）と女子の活動参加が少ない。これは毎年、泉区一斉清掃に運動部が中心となって参加しており、運動部への女子生徒の加入率が少ないことが男女差を生んでいるのではないかと思う。学校全体で取り組む機会を設定し、ボランティア活動への意識付けが必要である。

保護者の回答に関して「生徒の挨拶等のマナーが良い」は 97.1%と昨年と同値で高い割合を示しており、この点は本校の誇りでもあり、学校全体の良い雰囲気を形作っている原点でもある。今後とも教職員が自ら模範を示しながら生徒の意識を高めて行きたいものである。しかし、校内外に問わず一部の生徒の幼稚さから注意を受けたり、場合によっては事故を起こすこともあり、今後は校外においても高い評価が得られるよう継続して指導していききたい。「生活指導は理解できる」が 94.6%の評価を得ており、今後とも地域に誇れる学校づくりを保護者の方と体現できるようにしていきたい。

5 進路意識

進路関係項目は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の割合が、生徒と保護者とも全項目約 90%を超える高い結果を示している。この結果は全項目とも前年度の調査結果とほぼ同様の調査結果である。

今年度の調査結果については、3年生の進路達成状況、並びにこれまでの計画的な進路指導計画にもとづいた全教職員によるきめ細やかな進路指導の成果であると考えます。

昨年度より生徒と保護者の皆様が一緒に進路について考える機会になればと考え、保護者の皆様に進路ガイダンスへの参加案内をさせていただいたところ、平日開催にもかかわらず、1・2年生合わせて約 3 割の保護者の方に参加いただいた。

今後も生徒の高校卒業後の進路実現へ向けて、1年生の早い段階から進路意識の高揚を図るための指導に取り組んでいきたい。進路ガイダンスや進路情報の的確な提示、そして、生徒の興味、関心を踏まえ、生徒自身の職業適性を把握しながら自己理解を図り、それぞれの進路について真剣に考え、行動できるような進路指導をすすめていきたい。

6 男女差の大きい項目について

2 ページのグラフは男女を合わせた結果を表示しているので分かりにくいですが、昨年度と同様に「ボランティア活動に参加している」が相変わらず男子 67.6%、女子 44.0%と最も開きが大きい。その原因としては本校は地域の清掃活動等に運動部が積極的に参加しているため、部活動への取り組みの差がそのまま反映されたと推察できる。ボランティア活動を推進することは、本校の重点目標の一つでもあることから、今後も女子生徒への啓発を継続させていきたい。

保護者の回答の中では「子どもは、家庭学習を十分に行っていると思う」が男子 47.8%、女子 58.9%と 10.9%と昨年度（10.1%）と比較してわずかながら差が拡大している。前年度同様、部活動への取り組みでは、女子に比べて男子の割合が高かったが、家庭学習では逆となる結果となった。部活動には積極的に取り組んでいるが、その反面、家庭学習を十分に行っていない様子が窺える。しかしながら、家庭学習に対する取り組みは男子（44.0%→47.8%）・女子（54.1%→58.9%）ともに向上しており、全体としても増加（H26：44.1% H27:49.9% H28:54.5%）の状態傾向が継続している。今後も学業と部活動の両立をサポートできる指導を継続していく必要がある。他に注目すべき点としては「学校はいろいろな問題を見過ごさずに対応してくれる」が男子 75.7% 女子 65.4%となっており特に三年生ではその差が顕著（男子:83.5% 女子:59.0%）になっている。これは例年に見られない傾向であり原因については今後検討としていく必要がある。

7 その他

「施設・設備は満足できる」は、生徒（93.5%）・保護者（97.3%）とも 9 割を超えている。本校の施設設備は、公立高校としては全国でも有数なものであり、それらが有効に活用されていることや環境整備にも力を入れていることから満足度が高いと思われる。今後も、生徒が

「楽しく」「安全に」学校生活を送れるように、保守・整備にあたっていきたい。

保護者および生徒からの自由記述欄では、多数の建設的な意見や要望等をいただいた。今回のアンケートの分析結果を活用するとともに、貴重な意見や要望等にも真摯に取り組み、よりよい学校を目指して検討・改善していきたい。